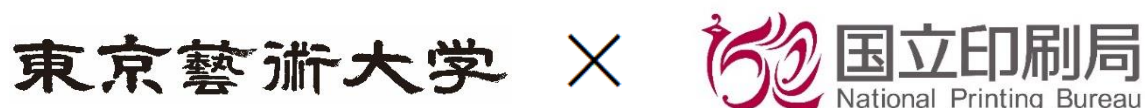


報道関係各位

国立印刷局の工芸官による特別講義を6/20（金）開催

～ 日本銀行券と国立印刷局工芸官の技巧 ～



東京藝術大学（所在地：東京都台東区/学長：日比野克彦）は、2025年6月20日（金）に上野キャンパスにて国立印刷局の工芸官による本学学生対象の特別講義を開催します（主催：美術学部）。本特別講義の開催は2023年に続き2回目となります。

【開催詳細】

□日時：2025年6月20日（金）

10:00-10:30 特別講義「国立印刷局の事業案内」

10:30-12:00 制作物 「国立印刷局のビュラン作製」（工芸官が学生にビュラン作製の実技指導）

13:00-13:30 凹版彫刻の実演（工芸官によるエングレーヴィングの実演）

13:30-16:00 凹版彫刻の実技指導（工芸官が学生にエングレーヴィングの実技指導）

□受講対象：本学学生

□場所：東京藝術大学 上野キャンパス（東京都台東区上野公園12-8）

□アクセス：JR 「上野駅（公園口）」・「鶯谷駅」、地下鉄 千代田線「根津駅」下車徒歩10分
地下鉄 銀座線・日比谷線「上野駅」、京成電鉄「京成上野駅」下車徒歩15分

特別講義の様子（2023年4月実施）



【取材のポイント】

これまであまり外部に出ることのなかった国立印刷局のビュラン彫刻技術の特別講義について取材ができます。通常はメディアに顔を出さない工芸官*が、実際に学生へ向けてその知識や知見の一端を説明しながら解説する特別講義です。

*工芸官の顔の撮影、名前等には、制限がありますので、予めご承知おきください。

*工芸官展示品の一部、撮影不可なものがございますので、予めご承知おきください。

*特別講義の進行を中断するような取材撮影は、ご遠慮ください。

【取材対応】

□取材をご希望の場合は事前申し込みをしてください（6月19日まで）。

□取材の申込のあった方に、集合場所や連絡事項等をお伝えします。

国立印刷局より

国立印刷局は、日本銀行券の製造をはじめ、官報、パスポートなど国民生活に密着した製品を製造している組織です。当法人は、明治4年（1871年）に大蔵省紙幣司として創設され、国民の皆様からの「信頼」に支えられ、令和3年に創立150年を迎えました。国立印刷局には、高度なアートの力（芸術性と技能）を有した「工芸官」と呼ばれる専門職員が在籍しており、国民経済に不可欠なインフラストラクチャーである日本銀行券やパスポート等のデザインや原版製造は、「工芸官」が担っております。

国立印刷局では、令和4年度から国内の芸術系・美術系大学の学生を対象として、高度なアートの力（芸術性と技能）を有した工芸官の高い技術と細密な彫刻を次世代に伝え、継承することが、文化・教育活動の一助に繋がるものとして、講義を開始しました。令和4年度には2大学、令和5年度には6大学、令和6年度においては4大学と1専門学校で開催し、美術や芸術を学ぶ学生のキャリアプランの可能性と選択肢を提供する機会として実施しております。令和6年度には日本の文化芸術の振興に寄与した功績が認められ、府省庁・独立行政法人等の国の機関としては初めて「文化庁長官特別表彰」を受賞しました。

国立印刷局が製造する日本銀行券などの原版作製では、現在でも工芸官による手仕事の中核をなしており、ビュランという金属の細密彫刻に適した専用の彫刻刀が用いられます。このビュランを使いこなすには熟練を要し、長い年月と根気が必要とされます。この講義は、国立印刷局の工芸官がどの様に緻密な画線を彫り進めているかを知ることができます。

このような取組は、日本銀行券に対する国民の信頼を維持するために必要な情報として、日本の伝統文化が独自性のある産業として結実した姿を外部に発信するとともに、国立印刷局におけるモノづくりが古来から続く日本文化及び伝統技能の確認、継承の場となっていること、また、工芸官のアートの質の高さが製造する製品の偽造防止技術の基盤となっていることから、国立印刷局が長年培ってきた工芸官の高い技術を国民の皆様に知って頂くことを目的とした、社会貢献活動の一環でもあります。

担当教員 美術学部 絵画科 油画専攻 版画研究室 三井田教授のコメント

東京藝術大学版画研究室では、版画芸術の伝統と現代を大切に研究と教育を実践してきました。伝統的な西洋版画の原点となる技法が、この度国立印刷局との協働で開催する特別講義テーマ「エングレーヴィング（彫刻銅版画）」です。この15世紀から始まる古典技法を実現するためには、厳しい修行が必要です。しか

し、最も重要なことはこの技法に関わる芸術家、工芸官の資質であるといえ、ビュランという道具、技法に見出された人に課せられた仕事といえるのです。東京藝術大学ではこの仕事を担う工芸官を多数輩出してきました。版画専門家から見て日本のお札（日本銀行券）は、美術的に大変に美しく、息をのむような手技を認めることが出来るのです。私たちは、100 年前のお札を美術工芸品として、そこに関わった工芸官たちの仕事に驚きをもって接することができます。すると現代の素晴らしいお札も 200 年 300 年後に誇れる印刷物として伝わっていくのだらうと想像できるのです。

〈本件に関するお問い合わせ先〉

東京藝術大学美術学部絵画科版画研究室

(取材のお問い合わせはこちらにお願いいたします)

Tel . 050-5525-2158

〈工芸官に関するお問い合わせ先〉

国立印刷局広報官室

Tel.03-3587-4210／E-mail : proffice@npb.go.jp